

バス路線の新体系を検討

出雲市公共交通システム 検討委員会を設置

9月5日、広域となった新出雲市にふさわしい公共交通システムを構築するため、旧2市4町で運行されているバス路線を中心に検討する「出雲市公共交通システム検討委員会」（飯野中央委員長、三島幸子副委員長、委員16人）を設置しました。

現在、市内には民間の乗合バスや廃止路線代替バス（生活バスや福祉バスを含む）などが運行されていますが、旧市町で運行してきた生活バスや福祉バスを新市にそのまま継続しており、さまざまな運行形態や料金などが混在している状況です。また、高齢者、障害者にとって利用しやすい形態や各地域の観光資源を活かした路線の検討など、たくさん課題があります。

委員会では、新市としての一体性や公平性、また利便性向上の観点から、総合的な検討を進めることとしています。そして、地域内交通の充実や、各地域と市内中心部を結ぶ路線など、住民ニーズに応じて協議を行います。



初会合の様子。今後の検討事項などを確認しました（9月5日 出雲交流会館）

9月21日 安全・安心のまちを目指して 青色回転灯防犯パトロール隊がまちを走る



9月21日、今市地区見守りネットワーク『だんだんネットワーク』による青色回転灯防犯パトロール隊の出発式が、今市コミュニティセンターでありました。

だんだんネットワークは、今市地区の社会福祉協議会や自治協会、青少年育成協議会など27団体、約90人で構成されており、登下校時などにあわせて通学路や出雲市駅周辺、大型スーパーなどでの防犯パトロールを行っています。今年度、警察庁が地域での自主防犯活動を支援する「地域安全安心ステーション」のモデル事業に選定されたことを契機に、青色回転灯装着車による防犯パトロールを計画。このたび、メンバーの乗用車6台に青色回転灯を装着する許可がありました。出発式では、代表の吾郷佳男さんが、「だれもが安全・安心に暮らせるまちづくりに向けて頑張ります」と決意表明しました。早速、青色回転灯を光らせながら、パトロールに出発。犯罪のさらなる抑止効果が期待されます。



大勢の人に見送られて出発する青色回転灯防犯パトロール隊。まちの防犯に貢献します

いもずの話題

9月2日 新100歳を市長が訪問

出雲市で今年度中に100歳を迎える方は22人（男5人、女17人）です。その中から敬老の日を前に、西尾市長が津町の松下キミさんを訪問し、お祝いの藍染めの風呂敷を贈りました。

松下さんは明治39年2月生まれ。料理が得意で、朝6時に起きて家族の洗濯物を干すことを日課にしています。この日も朝から精を出して作ったばら寿司を振る舞い、市長が「おいしい。おいしい」と食べるのを喜んでいました。

「孫などたくさんの方が遊びに来てくれるのが楽しみ」と話す松下さん。和食を中心に野菜や果物もよく食べ、カルシウムを多く取り入れた料理を作っているため、骨密度は70歳台とのこと。長寿の秘けつはどうか食生活にあるようです。



西尾市長の訪問に笑顔の松下キミさん（津町）

甘酸っぱくておいしいスモモ初収穫 新たな特産品目指し



鮮やかな紅色のスモモ（品種：太陽）を手にする金築勝利さん。収穫時期は8月～9月。甘酸っぱくてジューシーなスモモがとれました（大社町北荒木）

ぶどうに続く新たな特産品を目指して、大社地域のぶどう生産者が植えたスモモの木に初めて実がなりました。

これは、平成14年に立ち上げた「複合果樹研究会」（金築勝利会長ほか12人）によるもので、来年から本格的な販売を始める予定にしています。将来は、直売所での販売や観光農園、加工品の製造などに取り組む計画です。

会長の金築さんは、「まずはスモモを手始めに消費者に喜ばれる商品を作りたいです。ぶどう生産者以外にも輪を広げて、みんなで新たな特産品を作っていきたいですね」と熱く語ります。

来年の収穫が今から待ち遠しいですね。